

2019年2月号 簿記論 つぶ問

2問目

【問題】

剰余金の分配に関する設問に答えなさい。

(問) 以下の各ケースにおける貸借対照表項目の計上額に基づいて、分配可能額を計算しなさい。

(単位：百万円)

B/S 項目	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4
資本金	2,000			
資本準備金	300			
その他資本剰余金	200			
利益準備金	100			
繰越利益剰余金	1,000			
別途積立金	500			
自己株式	100	150	150	100
のれん	3,000	4,000	5,000	6,000
繰延資産	800	700	600	500

【解答】

ケース 1 : 1,600 百万円

ケース 2 : 1,250 百万円

ケース 3 : 850 百万円

ケース 4 : 900 百万円

【解説】 (単位 : 百万円)

分配可能額の算定に関する計算問題です。分配可能額の計算ステップは、次のように整理できます。パターン化してしまうとよいでしょう。

①**資本金および準備金**の額(a)を算定する

②**のれん等調整額**(b)を算定する

のれん \div 2 + 繰延資産

③(a)と(b)を比較する

→(a)>(b)のとき ⇒⑤へ進む ((c)の金額はゼロ)

→(a)<(b)のとき (a)+その他資本剰余金とのれん \div 2 を比較する⇒④へ進む

④のれん等調整額が資本等金額(c)を超過する額を算定する

③で、のれん \div 2の方が小さい→(c)=(b)-(a)

③で、のれん \div 2の方が大きい→(c)=その他資本剰余金+繰延資産

⑤分配可能額を算定する

分配可能額 = 剰余金の額 - ((c)+自己株式)

(剰余金の額 = その他資本剰余金 + その他利益剰余金)

以下、ケースごとにあてはめていきます。

・ ケース 1

① $2,000 + 300 + 100 = (a)2,400$

② $3,000 \div 2 + 800 = (b)2,300$

③(a)>(b)のため、⑤へ

⑤分配可能額 = $200 + 1,000 + 500 - 100 = 1,600$

・ ケース 2

①(a)2,400

② $4,000 \div 2 + 700 = (b)2,700$

③(a)<(b)のため、以下の判定結果に基づき④へ

(a)2,400 + その他資本剰余金 200 > のれん半額 2,000

④③の判定より

(b)2,700 - (a)2,400 = (c)300

⑤分配可能額=1,700-((c)300+150)=1,250

・ケース 3

①(a)2,400

②5,000÷2+600=(b)3,100

③(a)<(b)のため、以下の判定結果に基づき④へ

2,600 > 2,500

④③の判定より

(b)3,100-(a)2,400=(c)700

⑤分配可能額=1,700-((c)700+150)=850

・ケース 4

①(a)2,400

②6,000÷2+500=(b)3,500

③(a)<(b)のため、以下の判定結果に基づき④へ

2,600 < 3,000

④③の判定より

その他資本剰余金 200+繰延資産 500=(c)700

⑤分配可能額=1,700-((c)700+100)=900

※のれんの半額のみで(a)+その他資本剰余金の額を上回る場合には、その他資本剰余金の額と繰延資産の合計額が(c)の金額になります。

(c)の金額は、図を使って計算した方がわかりやすい方もいらっしゃるかもしれませんので、2月号で示した【図表 2】を再掲しておきます。網掛け部分が、分配可能額の計算上、剰余金の額から控除する部分、すなわち(c)の金額になります。

【図表 2】 のれん等調整額と資本等金額の関係

パターン①		パターン②		パターン③	
①	資本等	①	資本等	①	資本等
繰		繰	その資	繰	その資
	その資				その利
	その利		その利		

・略語の説明

資本等=資本金+準備金

その資=その他資本剰余金

その利=その他利益剰余金

①=のれん÷2

繰=繰延資産